

第 57 回愛山会ハイク(賤ヶ岳)のご報告

- 1 目的地 賤ヶ岳 (4 2 1.1 m)
- 2 実施日 令和 5 年 1 0 月 1 4 日 (土)
- 3 天 候 晴れのち曇り
- 4 参加者 8 名
加藤英治 近藤涼 神野秀雄 多湖実松 津金倫明 鳥山勇
橋倉政文 鈴木慎吾

5 当日の状況

コロナ禍前から何度も計画したが、悪天候のため中止を余儀なくされていた「賤ヶ岳」ハイクがやっと 7 年ぶりに実施できた。当日は、青空ものぞく暑くも寒くもない絶好のハイキング日和に恵まれた。

湖北の琵琶湖と余呉湖の間にある「賤ヶ岳」は、戦国時代に、信長の後継を巡り羽柴秀吉と柴田勝家が、雌雄を決した合戦の地としても知られている。いわゆる「賤ヶ岳の七本槍」でも有名な地である。

朝 10 時に北陸本線の「木ノ本駅」に 8 名の参加者が集合した。登山口まで少し距離があるので、計画ではタクシーで行く予定でいたが、地方の駅のため 2 台分を予約することが出来ず、駅前から登山口のリフト駅まで歩いていくことにする。稲刈りの済んだのどかな田舎道を 30 分ほどかけて歩いていく。本来ならばここから 4,50 分かけて賤ヶ岳山頂まで歩いて登る予定であったが、帰りの電車の時間の都合などもあり、リフトに乗って山頂近くまで一気に上がる。山頂駅から 15 分ほど歩き、午前 11 時ごろ賤ヶ岳山頂に着く。山頂からは南に琵琶湖、北には余呉湖が眼下に広がり絶景である。

広い山頂では大勢のハイキング客が景色を楽しみながら憩っている。我々も早めの昼食を摂りながら休憩する。久しぶりにお会いする方もあり、旧交を温め合う。昼食後、担当幹事さんから次回のハイキングの案内をして頂き、午前 11 時半前に山頂を後にして、余呉湖東岸に続く尾根道を下っていく。

杉林の中の尾根道を 1 時間ほど下ると、秀吉側が一時本陣を置いたと言われる「猿が馬場」に出る。そこからさらに 10 分ほど下り、秀吉側の将「中川清秀」軍が奮闘むなしく全員壮烈な最期を遂げた大岩山砦にある墓所に立ち寄る。その後、左手の急坂を余呉湖畔まで下り、午後 2 時前に「余呉駅」について、無事ハイキングを終了する。

今回は待望久しくやっと実施できた賤ヶ岳ハイクであった。参加された皆さん全員全行程を元気に歩き通され、紅葉も始まりかけた湖北の秋を満喫できたハイキングであった。 (担当 鈴木慎吾)



